

第5回 斐伊川水系宍道湖東域川づくり検討委員会 議事要旨

- 【日時】 平成27年1月20日(火) 10:00~12:00
【場所】 島根県市町村振興センター 6F 大会議室(2)
【出席者】 別紙出席者名簿のとおり
【傍聴者】 9名
【内容】

■議事

- (1) 斐伊川水系宍道湖東域河川整備計画第2回変更(原案)について
・・・島根県河川課より説明
- (2) 朝酌川流域の川づくりに関するアンケート結果について
・・・島根県河川課より説明

■質疑応答

斐伊川水系宍道湖東域河川整備計画第2回変更(原案)について

- 原案で「向島川」が削除された経緯を教えてください。
⇒「向島川」は松江市街地治水計画に基づいた事業。向島川は市が管理する準用河川であるが、今年度中に国が一級指定する予定であったが、一級指定手続きが夏以降になることとなった。
市が管理する河川を県の整備計画に入れることはできないため、今回の整備計画の変更からは外した。
今後、一級指定後、適切な時期に整備計画に入れる方向で検討する。
- 忌部川の千本ダムが決壊した場合の避難計画についての説明を受けた。千本ダムが決壊した場合、その流量は忌部川でさばけるのか。
⇒千本ダムの決壊により、直下流から採石場までは溢れるが、その下流からは流すことができると聞いている。
- 中川、比津川の施行期間は20~30年と聞いている。それぞれの流域には市が管理する支川もあり、古い橋等もある。橋等の改修は川の改修のタイミングまで待たないと実施できないのか。
整備計画のような計画ができると、計画であげられた事業が優先され、それ以外の橋等の改修が進まない。計画とは別にそうした改修は進められないのか。
⇒橋の架け替え等は河川事業の補償工事で行う。市管理の部分についても協議

して同時期に整備することもある。先行して架け替えする必要がある箇所については、手戻りが無いように実施することができる。また、修繕や補修等は適宜実施可能。

- 同じ「環境」と言っても、漁業、観光、地域住民などの視点によって変わる。河川整備、管理にあたっては、それらの視点を明確にしたうえで、生物のための環境づくりを進める必要がある。流域には、特定外来生物に指定されていない外来生物もいる。(松江堀川のアカミミガメ等) 観光客には受けがいいが、このままでいいのか考えてほしい。
- ⇒「環境」に関する本文の標記について後日助言を頂きたい。外来生物は大きな問題。市等と連携していく。

朝酌川流域の川づくりに関するアンケート結果について

- 問 13 (防災情報に係る問) で携帯電話と回答した地域住民が多いが、災害時に使用できない場合もあることを認識しているのか疑問。いざという時に使えないことも考慮して対応を考えてほしい。
- ⇒携帯電話の利用は、若い世代に多いニーズであり、こういったニーズにも対応していく必要はあると考えている。

- 防災に関して、防災無線は音声の不鮮明な場合がある。感想であるが、昔の半鐘のような住民に分かりやすいものが良いのではないか。新しい方法と古い方法を併用してみてもどうか。
- 維持管理に関して、河川堤防上のガードレールが長い箇所があり、草刈りをしようとしても大変である。また、草刈り機材が入らないこともあり、改修実施を進める中でこういった意見を取り入れてもらいたい。
- また、整備にあたっては、歴史的景観を維持するよう配慮願いたい。
- ⇒地元の方々が維持管理をしやすくなるよう、河川工事を進めていく中でこういった意見を取り入れたい。

- アンケート結果から見れば、「自主防災組織」や「防災リーダー」などの自助・共助のニーズが多いことが分かった。我々の目指している方向と同じであり、この貴重なデータを踏まえ、今後、消防・防災分野の対応検討に活用していきたいと考えている。

○植物等の外来生物の導入対策については、対象区間のみではなく、その上流も含めた対応が必要である。駆除等は地域の方の活動も重要だが、駆除している上流で種が入ってくるような状況になっては無駄になる。

⇒法的なことも含め、河川管理者のみでの外来生物の駆除を明言することは難しい状況である。外来生物の駆除については、他部局や関係機関と連携して対応していきたいと考えている。

○アンケートは高校生にも協力してもらっている。アンケート結果は参加者にも分かりやすい形で報告をしてほしい。

⇒記述設問が多い中、これだけの数の地域住民の方々のご意見を得られたことは、非常に貴重なデータであり、さらに整理して今後の河川事業に生かしていきたいと考えている。

○維持管理に関して、「ハートフルしまね」を活用することが考えられるが、その中身がわかりにくく、わかりやすいアピールが必要ではないか。

⇒ホームページや地元説明会などで紹介しているが、認知度は低い状況である。今後も機会があるたびに周知するなど、アピールを強化していきたい。

自由討議

○治水・利水を考えるうえで、漁業権は支障となることもあるが、漁業は治水・利水に資するものでもある。

上追子川ポンプ場、末次ポンプ場からの排水によりシジミが大量死する事象が発生する。整備計画では、上追子川ポンプ場の増設、四十間堀川放水路の整備を行うことになるが、新たな整備は環境を大きく変える。治水・利水を進めるうえで環境も適切に考慮してほしい。

⇒整備の実施にあたっては、十分に協議を行いつつ進めたいと考えている。

○アンケートで水草の問題があがっている。外来種と違い、在来種の場合は管理が難しい面もある。藻類の扱いは治水・利水の課題でもある。よく考慮してほしい。

⇒水草への対応は県・市で刈り取り等の対策を進めたいと考えている。

○アンケート結果を見て、松江の人が川に日常的に関わっていることが分かった。河川を含めた水辺の空間は、松江市民から見ても重要な観光資源であるという認識だが、景観に関してはいまだ不十分との意見もある。今後、観光

者側へのアンケートを実施すれば、非常に参考になると思われる。

○高齢者ほど河川に対する危機意識が高い。これは若い世代が洪水等の被害を受けた経験がないからではないか。大学生も、河川災害への意識はあまり高くないと感じる。今後こういったことを踏まえて、教育に携わっていければと思った。

⇒観光者へのアンケートは今後機会があれば検討する。

○付属資料 p67 の漁業について、シジミ漁が主要であることは述べられている。しかし、年毎の漁獲が激減していることについては触れていない。こうした動態についても記載すべきではないか。

⇒動態について、記載することを検討する。

○今回の河川整備計画は、将来の 30 年間の河川整備を定める非常に重要な計画である。

身近な川が、治水のみではなく、景観、環境もあわせて良くなって市民の手に戻っていくことを地域住民へアピールすることも重要であり、事業進捗状況の周知についても考えていく必要がある。

また、河川は延長が長く、維持管理については地域住民の協力が重要である。地域住民が維持管理に参加しやすいような施策も必要である。

○地域の人が川のメンテナンスに入れる仕組み、川への意識向上が図れる仕組みづくりを考えていく必要がある。

⇒島根県と松江市が共同で策定した松江市街地治水計画を基に、今回の河川整備計画の策定を進めている。計画内容も昭和 40 年代のものから大きく変更となっている。島根県と松江市が連携して事業進捗をアピールしていきたい。

まとめ

○整備計画の本文修正に対応すべき事項としては、「河川整備、管理にあたっては、漁業、観光、地域住民などの視点を明確にし、生物のための環境づくりを進める必要がある。」とのご意見が該当すると考えられる。スケジュールを鑑みれば、修正案について委員長一任で対応したいと考えている。

委員長確認後、各委員への照会を行うことで了解いただきたい。

→【各委員了解】

河川整備の実施にあたっては、関係者、宍道湖漁業協同組合と十分な協議を行いつつ進めてもらいたいと考えている。